

二〇二〇年度

東京純心女子中学校

二日適性検査型

(特待生選抜を兼ねる)

注意

- 一. 解答は解答用紙に記入しなさい。
- 二. 問題文は上下二段になっています。

次の文章を読み、あとの問題に答えなさい。

(*印のついている言葉には本文のあとに「注」があります。)

今日になくってはならないものとなったコンピュータの*中枢ちゅうすうをなすのは、記憶きおく(メモリ)です。いまや人間の生活になくってはならないコンピュータの価値がその記憶機能なしにはないように、人間の生活の中枢をなしているもの、なしてきたものは、記憶です。

記憶は、つねに人間にとってもっとも大切なものを育ててきました。たとえば、教育の根幹をなすのは、教えられたこと学んだことの記憶です。また、今日のような高齢こうれい社会で避けられないことは、ぼけて記憶の力が弱まることからくる困難です。

人間の人間らしさを、記憶はささえます。しかし、記憶は、何もしいでもおのずから自分の中にあるものではありません。それぞれが自ら時間をかけて育てるべきものが記憶であり、ひとは記憶によって育てられ、記憶にみちびかれて自分にとって大切なものを手にしてきました。

中世のヨーロッパでもっとも重んじられたのは、記憶術きおくじゆつでした。『記憶術と書物』という本によれば(メアリー・カラザース、別宮貞徳べつみやさだのりかんとやく監訳、工作舎)、記憶は、中世ヨーロッパにおいてあらゆるものの基礎きそをなすもので、賢い判断、賢慮けんりょという徳をみちびくものとされてきました。書物が簡単に手に入らなかつた時代に、記憶の訓練は大きな意味をもっていました。鍛え上げられた記憶の中にこそ、人格や判断力、市民性、信仰心しんこうしんを築くことができたからです。

記憶力を鍛えるというのは、*便宜上べんぎじょうの選択せんたくではなく、倫理りんりの問題だったのです。

記憶というのは、「覚えている」ということではなく、「自ら見つけ出す」ということです。というのも、すべてを覚えていることはできないために、

人の記憶は本質的に不完全であり、そのために記憶というのは、断片、かけらを集める、そしてまとめることだからです。記憶は心に結ばれる像の、イメージの倉庫でした。「心の中」という言葉は、「記憶の中」と同じ意味をもっていました。大切な事柄ことしがらは「あなたの心の中に記しておきなさい」と言った、とされます。

記憶は、言いかえれば、自分の心の中に、自分で書き込むという行為こうゐです。驚きおどろを書き込む。悲しみを書き込む。喜びを書き込む。そうやって、自分でつくりあげるのが、記憶です。

フランスの映画監督かんとくのアラン・レネはパリ国立図書館のドキュメンタリーを撮とって、『世界のすべての記憶』と名づけました。そこには、記憶とは、人間をつくってきた歴史であり、人間がつくってゆくだろう歴史であり、図書館はその倉庫なのだという考え方があります。

ひるがえっていま、わたしたちは人間がどういて及およばないような記憶力をもったコンピュータに自分たちの記憶をゆだね、記憶することを助けてもらっている。人間が自ら記憶力を手放してしまっているような危うさを感じます。

詩集『記憶のつくりかた』(朝日文庫)のあとがきに、わたしはこう記しました。

記憶は、過去のものではない。それは、すでに過ぎ去ったものこのこ
とではなく、むしろ過ぎ去らなかつたものこのことだ。とどまるのが記
憶であり、じぶんのうちに確かにとどまって、じぶんの現在の土壌どじょうと
なってきたものは、記憶だ。記憶という土の中に種子を播まいて、季節
のなかで手をかけてそだてることができなければ、ことばはなかなか
実らない。じぶんの記憶をよく耕すこと。その記憶の庭にそだってゆ
くものが、人生とよばれるものなのだと思う。

人の考える力、感じる力をつくってきたのは、つねに記憶です。けれども、もっぱらコンピューターに記憶をゆだねて、自分を確かにしてゆくものとしての生きた記憶の力が、一人一人のうちにとみに失われてきているように見える今日です。あらためて、人間的な記憶を日々に育ててゆくことの大切さを、自分の心に確かめたいものです。

おさだひろし
(長田弘『なつかしい時間』より)

〔注〕

中枢 — 中心となる大切なところ。重要な部分。
便宜上 — そうした方が都合がよいという事情。

〔問題1〕

人間の生活の中枢をなしているもの、なしてきたものは、記憶ですとありますが、筆者は、人間の「記憶」をどのようにとらえ、その「記憶」によって人間は何を得てきたと述べていますか。七五字以上一〇〇字以内で説明しなさい。なお、
や。や「なども、それぞれ字数に数えます。

〔問題2〕

人間が自ら記憶力を手放してしまっているような危うさを感じますと筆者は述べていますが、筆者がそのように感じている理由を、七五字以上一〇〇字以内で説明しなさい。なお、
や。や「なども、それぞれ字数に数えます。

〔問題3〕

じぶんの記憶をよく耕すこと。その記憶の庭にそだつてゆくものが、人生とよばれるものなのだと思うという筆者の考えをふまえて、あなたは自分の記憶をこれからどのように耕し、そだててゆこうと思えますか。具体例を示しながら述べなさい。ただし、次の「決まり」にしたがって、四五〇字以内で書きなさい。

〔決まり〕

- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- 、や。や「なども、それぞれ字数に数えます。